

はじめての 石見神楽鑑賞 虎ノ巻

石見神楽とは

石見神楽の起源は定かではありませんが、平安末期から室町時代に形作られた、大元神楽（国指定重要無形民俗文化財）が源流といわれており、後に出雲の佐陀（さだ）神能の影響を受けて演劇化されたといわれています。

明治政府より神職演舞禁止令が出され、それまで神職による神事であった神楽が民衆の手に受け継がれることになります。この舞手の変更を契機として、石州和紙を材料とした神楽面や大蛇の胴を模した衣裳「ちょうどん蛇胴」の開発、テンポの速い八調子神楽の誕生といった数々の変革がなされてきました。この変革の流れは現在も衰えておらず、創作演目の誕生や照明・音響等の特殊効果を導入など「進化する芸能」として発展し続けています。

また、昭和45年の大阪万国博覧会に参加して以来、全国にその名が知られるようになり、日本国内はもとより世界各地での上演が行われるようになりました。

八調子神楽発祥の地“浜田”

昔ながらのゆったりとした雰囲気の六調子神楽に対し、八調子神楽は軽快な躍子と勇壮な舞いが特徴です。幕間が3分も空くと「早く舞え！」とヤジが飛ぶほど豪快かつせっかちな漁師町・浜田の気風に影響を受けて変化したとされています。いつしか八調子神楽は石見神楽のスタンダードとして市内の社中はもとより、島根県西部（石見地方）や広島県北部にも広がってきました。浜田市は八調子神楽の発祥の地でありながら六調子神楽を継承する社中も多くあり、新旧の神楽を見ることができる貴重な地域です。



豪華な衣裳で派手に舞う姿は迫力満点。見る人を楽しませる。
石見神楽の人気者。

鬼

神

勇壮華麗な舞で鬼を退治する子供たちのヒーローです。



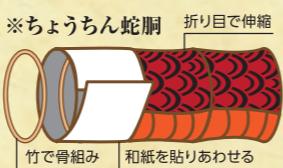
◆塵 輪じんりん

八調子では神2人鬼2人が対決する、鬼舞の代表的な神楽です。
帶中津日子の天皇が、異国より日本に攻め来る数万騎の軍勢を迎撃します。



◆大 蛇 おろち

諸国を旅していた須佐之男命は、出雲の國で大蛇に娘を取られてしまうと嘆く老夫婦と出会います。娘との婚約を条件に大蛇退治を約束した須佐之男命は、大蛇に毒酒を飲ませこれを退治します。大蛇は石見神楽を代表する演目の一です。



◆鍾 城 しょうき

病床に伏した玄宗皇帝の夢の中で皇帝を蝕む疫病神を1人の神が退治します。目を覚ました皇帝は病が癒えており、夢に見た神を画家に描かせたところ鐘城であることが分かりました。以降、鐘城は病魔を除く神として崇められるようになります。



◆恵比須 えびす

美保神社の御祭神で、漁業、商業の祖神として崇拝されています。八重事代主命（恵比須の大神）の飼釣りの様子を舞ったものです。

◆その他の演目

◆神	◆天八	◆蓋神
◆塩真	◆天十	◆塚船
◆帯	◆黒貴	◆日本武尊
◆神八	◆岩	◆戸
◆神祇太鼓	◆五穀種元	◆政衛義内神
◆羯	◆賴八	◆の
◆切	◆四熊	◆五
◆道がえし	◆四鹿	◆五
◆四	◆四鹿	◆五
◆四	◆四鹿	◆五
◆鹿	◆四鹿	◆五

儀式舞

神樂を奉納する為の舞殿に神を招く舞。



子供神樂

子供だけで構成された石見神楽。伝統芸能の継承に繋がっています。



軽快なリズムで石見神楽を盛り上げます。

鑑賞の豆知識

神楽大会と奉納神楽

石見神楽は、主に神楽団体が集結する「神楽大会」や地域の例祭等で行われる「奉納神楽」で観賞できます。神楽大会はホームページなどで、事前に日時や観賞料などを調べましょう。また奉納神楽は、地域のお宮や町内のお祭りなどで行われます。マナーをしっかりと守りましょう。

御花を打つ

舞に対して御祝儀を出すことを、「花を打つ」といいます。3千円程度が相場となっています。花を打つと幕間に御花披露として名前を読み上げ、無病息災などの祈祷をしてもらえることがあります。

石見神楽をもっと詳しく

石見神楽（いわみかぐら）公式サイト

石見神楽 検索

神楽工房



石見神楽 (長浜)

浜田市の伝統工芸品「石州和紙」を幾重にも貼り合わせて作られています。激しい動きの多い石見神楽には欠かすことのできない軽さと丈夫さが特徴。



神楽衣裳

糸・銀糸がふんだんに織り込まれる豪華絢爛な衣裳。職人の手により全行程を手作業で縫い込まれた衣裳は細部まで美しい、石見神楽をより華やかに彩る。



蛇胴

浜田市で開発された大蛇に使用される舞台衣裳。竹の骨組みに石州和紙を幾重にも貼り合わせて作られており、約17mの長さにも関わらず軽量で丈夫。

蛇頭



鍾馗面



恵比須面



般若面



姫面



羯鼓面



衣裳



茅の輪



刀

